

令和 5 年度伊達市経営に関する説明会議
市長あいさつ（～今年度の経営方針について～） 要旨

本日は伊達市経営に関する説明会議に大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃より皆様方にはご支援ご協力いただきまして、厚く御礼申し上げます。

また、令和 5 年度の行政推進員として皆さんにお引き受けいただきましたこと心から感謝申し上げます。

行政推進員の役割といたしましては、市民へ行政の内容を周知いただくこと。また、市民からの相談に関して行政に伝えていただくこと。市民と行政との橋渡しとして重要な役割を担っていただくことになりますので、今年一年どうぞよろしくお願いいたします。

まず、令和 5 年度の伊達市の経営方針についてお話させていただきます。

昨年の令和 4 年度を振り返ってみますが、令和 4 年 3 月に福島県沖地震が 2 年続けて発生し、伊達市においても大変な被害を受けたことは、皆さんもご承知であると思います。今現在も伊達橋が通行止めになっており、地域の経済そして生活環境に非常に大きな影響を受けている状況です。伊達橋におきましては、今年の 10 月に仮橋が完成いたします。仮橋は現状の幅員を確保し 20 トンのダンプやトラックも通行できるようになります。本橋を架けるにはどのように架けるか検討していくことになるので時間がかかるとはと思いますが、国の権限代行で国が予算を確保して対応していただくことになっています。

また、新型コロナウイルス感染症は、市民生活に大きな影響を及ぼしております。昨年は第 7 波、第 8 波と感染が拡大してきました。現在はある程度抑えられている状況になっております。皆さんに感染対策を行っていただいたこと、また、重症化予防のためのワクチンを積極的に接種していただいたことによるものであり、今後も引き続き対応していくべきものだと思っております。ワクチン接種は 6 月から順次進めてまいります。5 回目、6 回目を先ず高齢者、基礎疾患がある方から順に接種していただき、10 月からは一般の方の接種を進めていくことにしております。今までどおり、保原体育館で集団接種を進めてまいります。予定もあることと思いますが、日時を指定させていただきます。変更も可能ですのでスムーズな集団接種のご協力をお願いいたします。

それから、原油高、物価高に対する対応ですが、コロナの交付金を使い、プレミアム商品券や事業者支援などを行ってまいりました。まだ物価高は収まっておりませんが、物価高に対しての交付金も国から交付される予定ですので、活用して皆さんの生活を支援できるような対応をしてまいります。

災害や感染症等々ございましたが、一方で伊達市におきましては、相馬福島道路が全線開通しまして人や物の流れが大きく変わっております。利便性が拡大することから住宅団地、高子北地区に 217 区画。組合施工で整備し販売中であります。

新工業団地は 3 月に造成完了いたしました。全区画の 9 割が既に販売が終了してしまっていて、残り 1 区画の 1 ヘクタールだけがまだ残っておりますが、これから募集をかけて販売してまいります。雇用の拡大を図り、若い人たちができるだけ地元で働く場所を確保することが、若者が定住するためには一番効果があると思っております。

大型商業施設は、これから 2 年後に開業する予定となっております。買い物に来ていただいた方には、アンテナショップ等を活用しできるだけ市内、県北地域を含めて回遊できる施策を作っていきたいと考えております。大型商業施設では 3 千人の雇用も想定されています。工業団地も含めて雇用の拡大に期待しています。

令和 5 年度は、大型プロジェクトをしっかりと完成させる。進捗させていく。伊達市の良さ、伊達市のあるものをしっかりと伸ばした政策・施策をしていきたいと思っております。伊達市は交通の便に非常に恵まれています。相馬福島道路もそうですし国道 4 号、東北本線があって交通の便利なところを施策に取り入れていきます。

伊達市には豊かな自然がございます。田んぼや畑に囲まれた里山があります。農産物につきましても、桃やきゅうり、あんぽ柿、今はブドウなど美味しい果物・農産物があります。歴史を見ましても伊達氏の里でございます。霊山の北畠顕家の歴史もございます。そして、今まで進めてきた子育ての伊達市版ネウボラは、生まれる前からお母さんと保健師が携帯電話で直接相談ができる先進的な取り組みを行っています。

皆さんに協力いただいて健康づくりの取り組みで行っている元気づくり会は、130 の地域で行っております。今までずっと積み上げていたもの、また、昔からある伊達市の良いものを伸ばした施策を進めていきたいと思っております。

それらをしっかりと進めていくために作成したのが、第 3 次総合計画でございます。令和 5 年度が初年度で令和 14 年度までの 9 年間の計画として作りました。「人と緑と歴史が結び合う ひかり輝く田園空間・伊達市」を将来の目指す姿として決めました。これからしっかりと進めたいと思っております。

人や緑や、歴史は伊達市の宝でございますので、宝を皆で守りながら伸ばしていく、そして田園空間は自然と都市が調和した美しい田園風景に包まれたまちを作っていこうとの想いを込めて、この将来の姿を定めたところです。それを実現するための一つ一つの施策として 6 つの基本目標を掲げましてまちづくりを進めたいと思っております。

「安全・安心できれいなまち」、「健やかでやさしい健康・福祉のまち」、「未来を拓く人を育む教育・文化のまち」、「活力とにぎわいあふれる産業のまち」、「便利で快適に暮らせるまち」、「みんなでつくる協働のまち」この 6 つをまちづくりの基本に進めてまいりたいと思っております。

今年の予算規模は 332 億円であります。昨年度の当初予算と比較しますと 5 億円増加しています。伊達市の財政は厳しい状況ではありますが、今まで行ってきた全事業を検証して見直しを行い、市民生活に必要できめ細やかな予算編成を行いました。

■具体的な事業

伊達地域におきましては、伏黒幼稚園が老朽化してきたこと、また、0、1、2 歳児の子どもたちを預かる体制を整えるため、認定こども園として建て替えを行います。事業者も決まり、令和 6 年 4 月開園を目指しているところです。

伊達小学校につきましては、今本体の工事を進めています。今年の 12 月に完成いたします。来年の 1 月には仮設校舎にいる子どもたちは引っ越しをして、新しい校舎で勉強できます。外構工事は行いながら授業を新しい校舎で受けることができます。

ケーブルテレビは、平成 11 年に開局し、維持管理に努め現在に至っております。技術の進展及び設備の老朽化への対応に迫られたことから、事業の方向性について検討を重ねてまいりました。これまで、インターネット回線を活用したテレビの配信方法を検討いたしましたが、昨今の通信技術の進展は目覚ましいものがあります。今後は 5G の定着が見込まれ、それに合わせて、インフラを整備し更新し続けなければならないこととなります。また、インターネット加入等による住民の費用負担が発生することなどから、現在のように無料で視聴いただくことは難しくなります。こうした状況から、市としましては、テレビの視聴はアンテナ設置の方向で進めることが総合的に最善であると判断し 2 月 19 日に住民説明会を開催したところです。アンテナ設置費用は、みなさまの負担がないよう市で設置してまいります。今後は、再度住民説明会を開催し、丁寧な説明に努めていくとともに、自主放送番組の配信方法の検討を進めてまいりますので、ご理解をいただければと思います。

梁川地域は歴史文化でも伊達氏発祥の地、養蚕関係でも発展したまちであります。文化財収蔵施設として梁川総合支所 4 階に展示施設を作ります。昔の議場があるので皆さんが集まれるような、例えば音楽会などを開けるような施設にもしていきたいと考えています。

やながわ希望の森公園は、年数が経過し老朽化が進んでいます。今年度、実施設計を行い、来年度から整備工事を行っていきます。基本的には物を作るのではなく綺麗に整備し、今ブームのキャンプサイトも作っていききたいと思っています。

梁川高校につきましては、今年の 4 月に伊達高校として保原高校と統合いたしました。校舎については、今年と来年までは生徒がおりますが、再来年からは校舎は使用されなくなります。県から校舎を譲ってもらい、地域のために何か発信できるような場所にしていきたいと考えております。

保原地域では、市役所の北側に保健センターがありますが、現在保健センター改修・増築をしております。健康保険、健康福祉に子育て支援、発達相談の支援を合わせてトータルで支援できる施設を作っているところで来年オープンを予定しています。

また、子育て、教育関係におきましては、上保原の放課後児童クラブで使用している建物はプレハブで老朽化が進んでいることから、子どもたちが快適に放課後を過ごせるよう施設を建て替え致します。やはり、お父さんお母さんが働くためには、子どもたちを安心して預ける場所がなければならないと思っています。そのために、伊達市におきましては、今現在、三つの認定こども園の整備を進めております。一つは保原認定こども園。保原支援学校の隣に来年4月の開園を予定しています。そして高子駅北地区の住宅団地に、高子認定こども園を計画しております。令和7年4月開園予定。それから、伊達地域になりますが、伏黒幼稚園を認定こども園にする計画で進めております。

霊山地域では、霊山こどもの村のにあるキャンプサイトの増設を行います。夜の照明などに利用していただくためキャンプサイトに電源設備も付けます。また、遊歩道の整備も行います。それから、霊山山頂のトイレを既存のトイレからバイオトイレに改修いたします。バイオトイレですから細菌で分解しますので、環境に配慮したトイレとなっております。

霊山総合支所については大分老朽化が進んでおり、隙間風や雨漏りがする状態でした。今年度設計を行い、霊山中央交流館、体育館がある本日の会場に併設していきたいと考えております。行政機関が集まることで街中の賑わいにも寄与できると思っております。

教育関係ですが、令和4年度に霊山中学校の柔道場改修を行い、現在、一般の方に貸し出しを行っています。また、掛田小学校敷地内に掛田幼稚園ありましたが、閉園になりましたので、そこに霊山スクールコミュニティを設置しました。学校を核とした地域の居場所、学校と地域の交流の場でございます。今年の6月に地元のみなさまと話し合いを行いますのでご協力お願いいたします。

月舘地域では、月舘学園が開校いたしまして、子どもたちが大変有意義に授業を受けています。区域外から入学もできることからほかの4地域から通っている子どもたちもいます。英語やICT教育に特化した授業も行っており、英語では英検の合格者数が多くなっています。外国人の教師を張り付け、生の英語で学習できる環境にしております。

プログラミング教育についても地元事業者が開発した動く小さなロボットを月舘学園にいち早く導入しました。伊達市の中、県内に広まっています。

旧小手小学校のリノベーションを行っています。サイクリングブームですので、自転車で泊まれる宿をコンセプトに3階に宿泊施設を設けました。2階は貸しオフィス。1階は地域の皆さんに使っていただく会議や休憩ができる施設、また、カフェテラスとし

ています。建物は完成しましたが外構工事を行っており、完成は10月を予定しています。これからの利活用が期待されます。

市の基本的な考え方につきましては、どこに住んでいても、利便性が確保されるような施策を進めていきたいと思っています。具体的には、デマンドタクシーの見直しを行ってまいります。今まで使い勝手が悪いというようなお話をいただいております。今年デマンドタクシーの見直しをしながら、来年以降もっと使いやすいようにしていきたいと思っています。先ほどお話しました認定こども園や放課後児童クラブの充実。行政につきましてはデジタル化も進めてまいります。今窓口に行っても書類を書かなくても手続きが行えるスマート行政を進めていきたいと思っています。もう一つ集落の活動がなかなかできなくなっているという状況で、集落を活性化するために、集落支援員を令和5年度から配置いたします。皆さんからいただいた集落の課題を見つけ、そして解決のためのお手伝いをさせていただきたいと思っています。窓口に来て相談ではなくこちらから伺い、様々な課題の相談をお受けし、集落活動を活性化していくという目的です。伊達市におきましては子どもから高齢者まで暮らしやすいまち、安全安心なまち、便利なまち、そして綺麗なまちにしていくことを経営の基本的な方針といたします。

令和5年度頑張っていきたいと思いますので、ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。